

お知らせ

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

平成 27 年（2015 年）外国人客宿泊状況調査（年間集計）について

（公財）京都文化交流コンベンションビューロー（以下、「ビューロー」という。）では、平成 26 年 4 月以降、京都市内の主なホテルの協力を得て国・地域別の外国人客宿泊状況調査を毎月行っております。

このたび、暦年集計としては初めてとなる平成 27 年（2015 年）の調査結果（1 月～12 月）がまとまりましたのでお知らせします。

1 調査結果のポイント

〈京都市：27 ホテル〉

- 客室稼働率は前年を 2.6 ポイント上回る 88.9%という高水準に達し、記録的な 1 年となった。特に、90%を超える月が 5 か月から 7 か月に増え、2 月、6 月、7 月は前年比 8.4～9.7 ポイント増という大きな伸びをみせた。
- これまでの観光プロモーションに加え、アジア諸国の経済発展、観光ビザの発給緩和、LCC 等航空路線の拡大、円安などが追い風となり、外国人宿泊客は前年比 135.1%と大きく増加した。客室利用割合でも前年を 6.2 ポイント上回る 35.1%と大きなシェアを占め、7 月には初の 40%超えを記録するとともに、8 月に 11.2 ポイント増となるなど、すべての月で前年を上回った。
- 市場別では、台湾が引き続き 1 位となり、中国が前年の 2 倍を超える増加をみせ、アメリカを抜き、2 位となった。
- 訪日外客数（日本全体）が前年比 147.1%と増えたことに対し、京都（27 ホテル）が同 135.1%であったことは、京都府への訪問率が増加（2014 年／21.9%→2015 年／推計 22.1%／観光庁訪日外国人消費動向調査）していることを踏まえると、高稼働率のため調査対象の 27 ホテルに泊まれず、その他ホテルや旅館等に泊まったり、あるいは近郊都市に宿泊して京都を日帰り観光する観光客が多いことを示していると推測される。
- 日本人宿泊客は、外国人観光客がより早い時期から宿泊予約を行うこと等により、客室確保がしづらくなったこともあり、客室利用割合で前年を 6.2 ポイント下回る 64.9%となり、宿泊客数においても前年比 96.4%と微減した。

〈日本全体〉日本政府観光局（JNTO）統計より

- 2015 年の訪日外客数は前年比 147.1%の 1,973 万 7 千人で、過去最高を記録し、1970 年以来 45 年ぶりに訪日外客数が出国日本人数を上回った。また、伸び率も 1964 年の統計開始以来、最大を記録した。
- 市場別では、主要 20 市場のうち、ロシアを除く 19 市場が年間での過去最高を記録し、中でも、中国が前年比 207.3%の 499 万人に達し、初めて最大市場となった。

2 調査のあらまし

(1) 概要

外国人宿泊状況をタイムリーに把握できるよう、市内の主なホテルの協力を得て、国・地域別の集計（「実人数」「延べ人数」「延べ部屋数」）を月ごとに実施。※全国で唯一の取組（ビューロー調べ）

調査結果をオープンにすることで、宿泊関係だけでなく観光に関わる事業者も、販売計画や PR 戦略などのマーケティングに活用できる。なお、本調査における外国人は、日本国籍以外のパスポートを有する人で、ビジネス、観光を問わない。

(2) 対象ホテル

30 施設 8,386 室（平成 27 年 12 月現在）

※市内ホテル客室数の約 4 割をカバー

※今回の年間集計（前年比調査等）の対象は 27 施設 7,892 室

(3) 分析数値

客室稼働率、外国人利用割合は、「延べ部屋数」の集計による。

外国人宿泊客数、日本人宿泊客数、構成比、前年比は、「実人数」の集計による（※）

※2015 年 11 月分まで、「延べ部屋数」で集計・分析してきたが、日本政府観光局（JNTO）統計等との比較を行う観点から、今回分から「実人数」で集計・分析。

(4) その他

「日本全体」については、日本政府観光局（JNTO）発表の「訪日外客数（訪日外国人旅行者数）」を示す（一部数値は 11 月分まで）。

「関西」については、法務省発表の出入国管理統計統計表の「港別入国外国人の国籍・地域」における「関西（空港）」の数値を示す（数値は 11 月分まで）。

<京都観光総合調査との関連について>

京都市内の外国人宿泊客統計調査については、ほぼすべての市内宿泊施設を対象とする「京都観光総合調査」（京都市から年 1 回発表）が基本指標となる。

本調査は、京都市内の主なホテルを対象とするサンプル調査であるため、その他ホテルや旅館等に宿泊した外国人客は含まれておらず、訪日外客数（日本全体）等との比較等も参考分析という位置付けになる。

3 発表時期

毎月 1 回、月末～翌月初

4 発表方法

当ビューローウェブサイトに掲載 <http://hellokcb.or.jp>

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人京都文化交流コンベンションビューロー

インバウンド課 水上、桑田 TEL : 075-212-4145

平成 27 年（2015 年）外国人客宿泊状況調査 結果概要

1 客室稼働率 ～2月の伸びが顕著～

客室稼働率は、前年を 2.6 ポイント上回る 88.9%という高水準に達し、90%を超える月が 5 か月から 7 か月に増えるなど、記録的な 1 年となった。

最も稼働率が高かったのは、紅葉時期の 11 月で 94.2%であった。ただし、例年に比べ色づきがいまひとつであったことも影響してか、前年（95.3%）と比較すると微減した。2 番目に高かったのが 4 月（94.1%）で、桜開花のほか、大型会議「第 29 回日本医学会総会 2015 関西」（4 月 11 日～13 日：約 30,000 人）の開催などが要因としてあげられる。

伸び幅が最も高かったのは 2 月で、前年より 9.7 ポイント高い 86.9%となった。春節や「京都マラソン 2015」（2 月 13 日～15 日：約 16,000 人）の開催効果といえ、京都観光にとって、2 月は、もはやオフシーズンとは言えない状況となった。6 月、7 月も前年差で、それぞれ 8.4 ポイント増、9.0 ポイント増と大きな伸びを見せた。

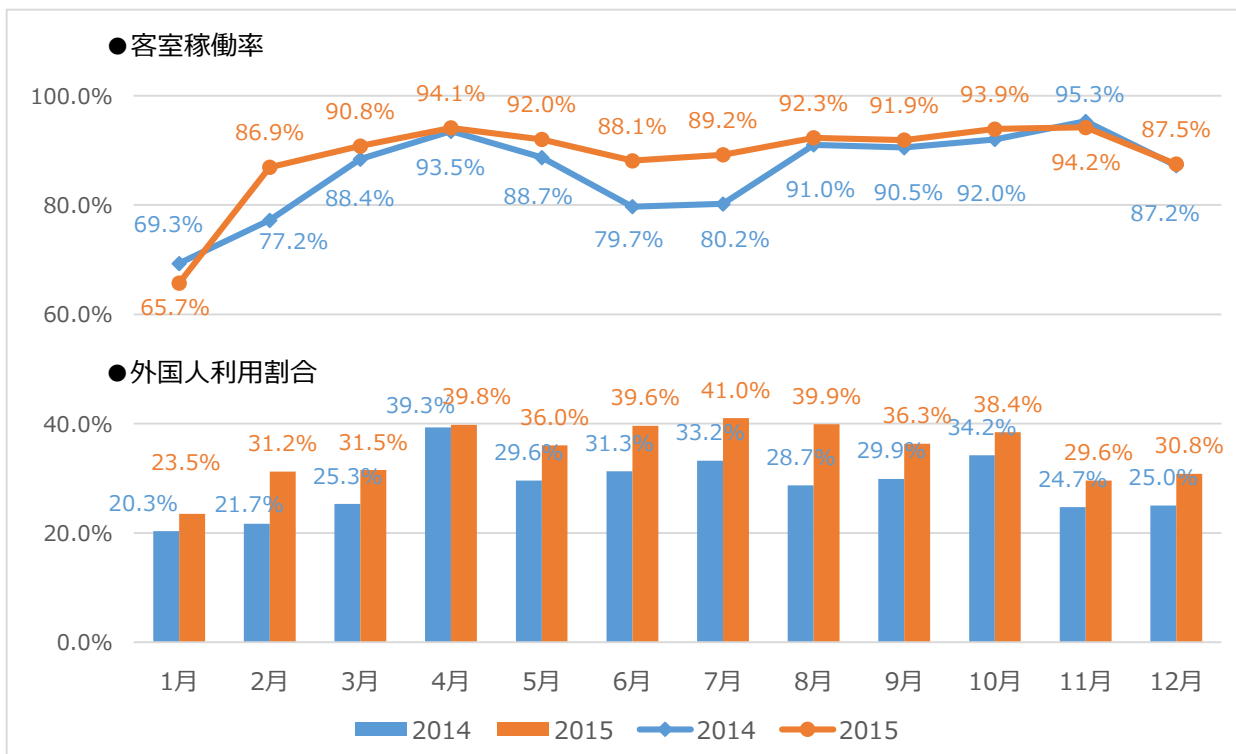
2 外国人利用割合 ～7月には初の40%超え～

外国人利用割合は、前年を 6.2 ポイント上回る 35.1%となった。7 月には、41.0%と調査開始以来初めてとなる 40%超えを記録するとともに、全ての月で前年を上回り、特に 8 月において 11.2 ポイント増、2 月に 9.5 ポイント増、6 月において 8.4 ポイント増と大幅増加が見られた。

日本人宿泊客は、外国人観光客がより早い時期から宿泊予約を行うこと等により、客室確保がしづらくなったこともあり、客室利用割合で前年を 6.2 ポイント下回る 64.9%となり、宿泊客数においても前年比 96.4%と微減した（P19 参照）。

	2015 年	2014 年	対前年差
客室稼働率	88.9%	86.3%	2.6 ポイント
外国人利用割合	35.1%	28.9%	6.2 ポイント

※客室稼働率、外国人利用割合とも「延べ部屋数」ベース



3 構成比（年間） ～中国が前年比2倍増となり、1位台湾に肉薄～

台湾が、構成比において前年から1.9ポイント低下したものの、最大市場としての1位を堅持。

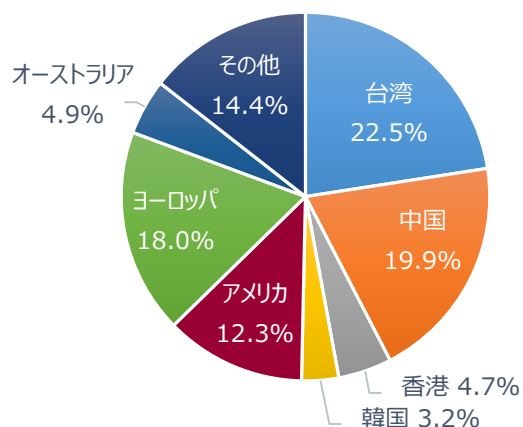
2位は中国で、前年の約2倍となる増加（前年比222.8%）で、構成比においても、前年を7.9ポイント上回る19.9%に躍進。2014年では台湾の約半分（12.5ポイント差）であったものが、2015年では2.6ポイント差に肉薄した。

アメリカは、前年比127.1%の上昇に関わらず、中国の急増の影響を受け、構成比で0.8ポイント減少し、3位となった。

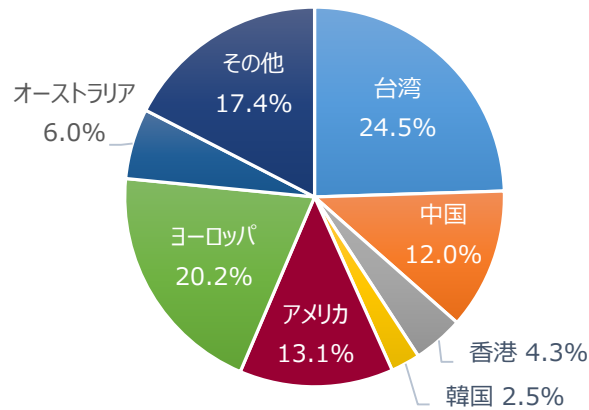
4位から6位は、前年と同じく、オーストラリア、香港、イギリスの順で、前年9位だった韓国が、前年比172.1%と中国に次ぐ大きな伸びをみせ、フランス、スペインを抜き7位となった。

2015年				2014年		
	国・地域名	構成比	前年比		国・地域名	構成比
1	台湾	22.5%	124.1%	1	台湾	24.5%
2	中国	19.9%	222.8%	2	アメリカ	13.1%
3	アメリカ	12.3%	127.1%	3	中国	12.0%
4	オーストラリア	4.9%	110.6%	4	オーストラリア	6.0%
5	香港	4.7%	148.8%	5	香港	4.3%
6	イギリス	3.4%	127.9%	6	イギリス	3.6%
7	韓国	3.2%	172.1%	7	フランス	3.1%
8	スペイン	2.9%	130.4%	8	スペイン	3.0%
9	フランス	2.8%	121.1%	9	韓国	2.5%
10	イタリア	2.6%	149.3%	10	イタリア	2.3%

2015年 京都27ホテル・構成比
(国・地域別)



2014年 京都27ホテル・構成比
(国・地域別)

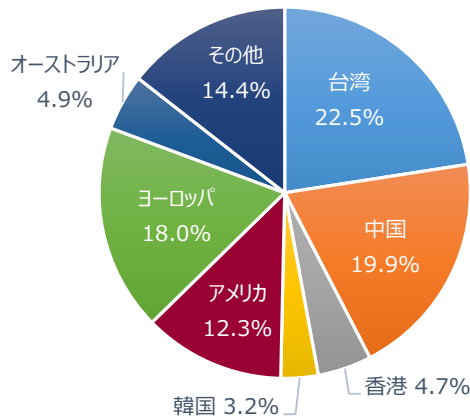


参考：構成比（年間） <日本全体、関空との比較>

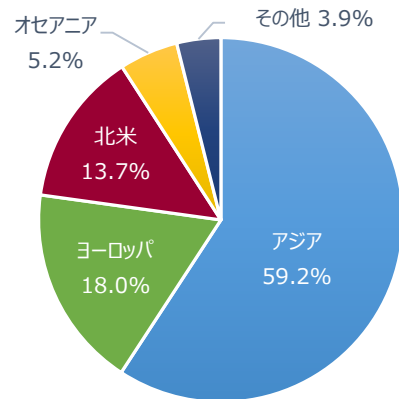
日本全体において、アジア客が84.3%を占めたのに対し、京都27ホテルでは59.2%であった。一方、欧米豪は日本全体で15.3%であったのに対し、京都27ホテルでは約2.4倍の36.9%を占めた。

なお、このアジア対欧米豪の割合の差は、京都に最も近い国際空港である関空空港と比較するとさらに拡大する。これは、関空がアジアのゲートウェイとしての役割が高まる一方、欧米豪は、就航路線の多い成田・羽田から新幹線等を利用して京都を訪問していることを裏付けているといえる。

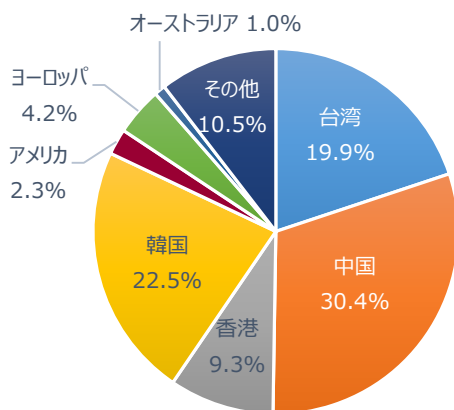
2015年 京都27ホテル・構成比（国・地域別）



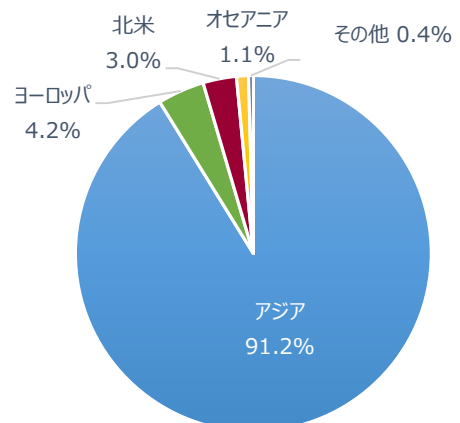
2015年 京都27ホテル・構成比（エリア別）



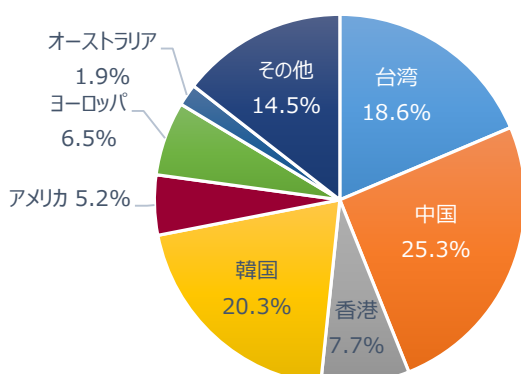
2015年 関空・構成比（国・地域別）



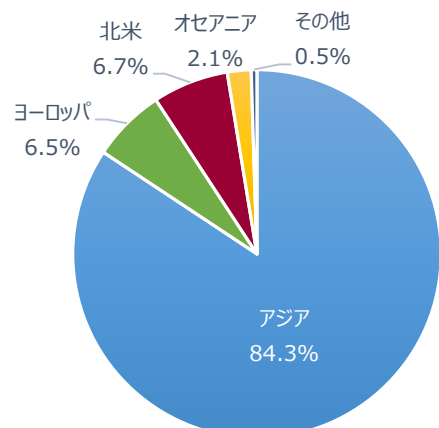
2015年 関空・構成比（エリア別）



2015年 日本全体・構成比（国・地域別）

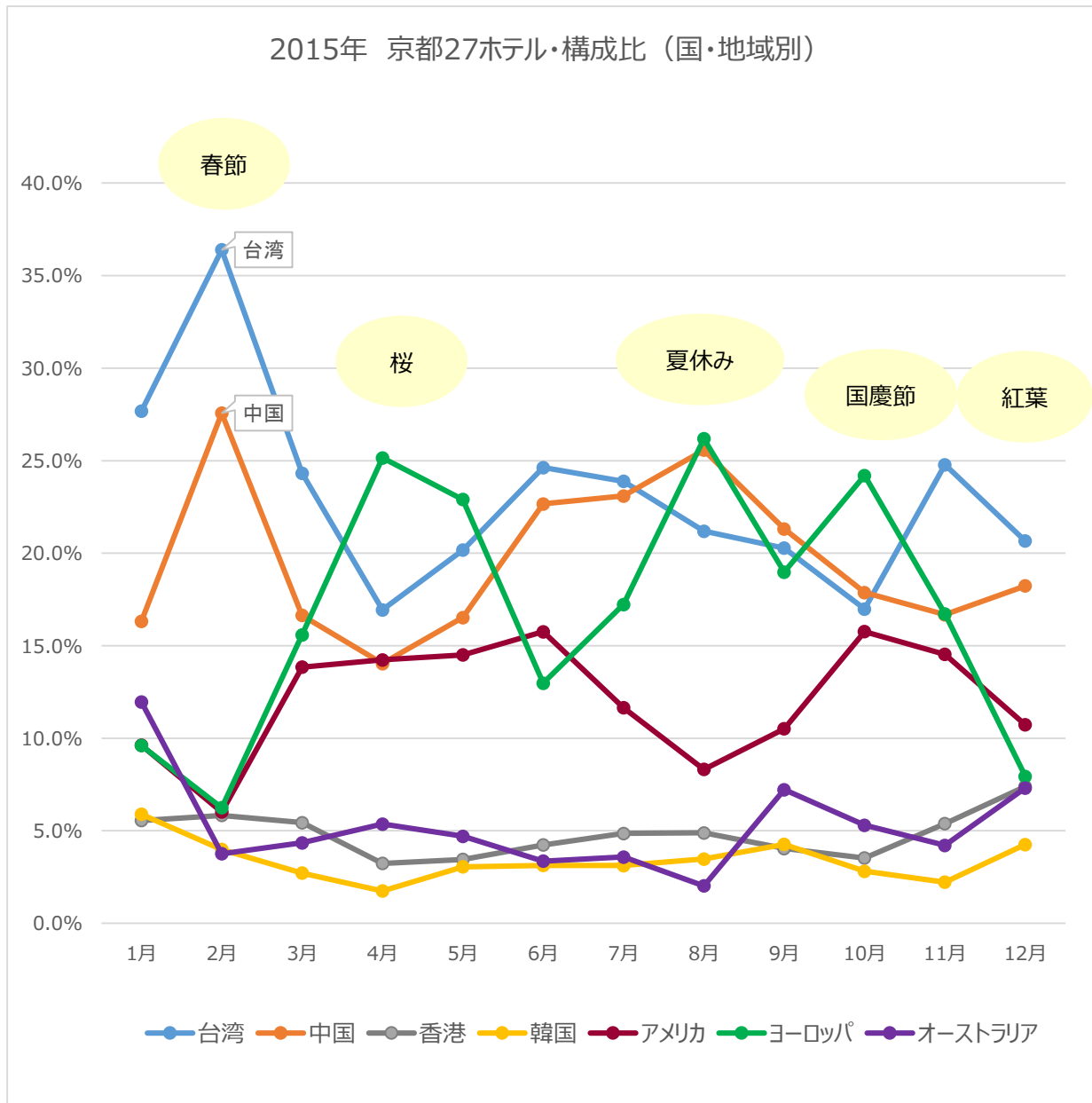


2015年 日本全体・構成比（エリア別）



4 構成比（月別） ～春節の2月は台湾・中国が外国人客の6割を占有～

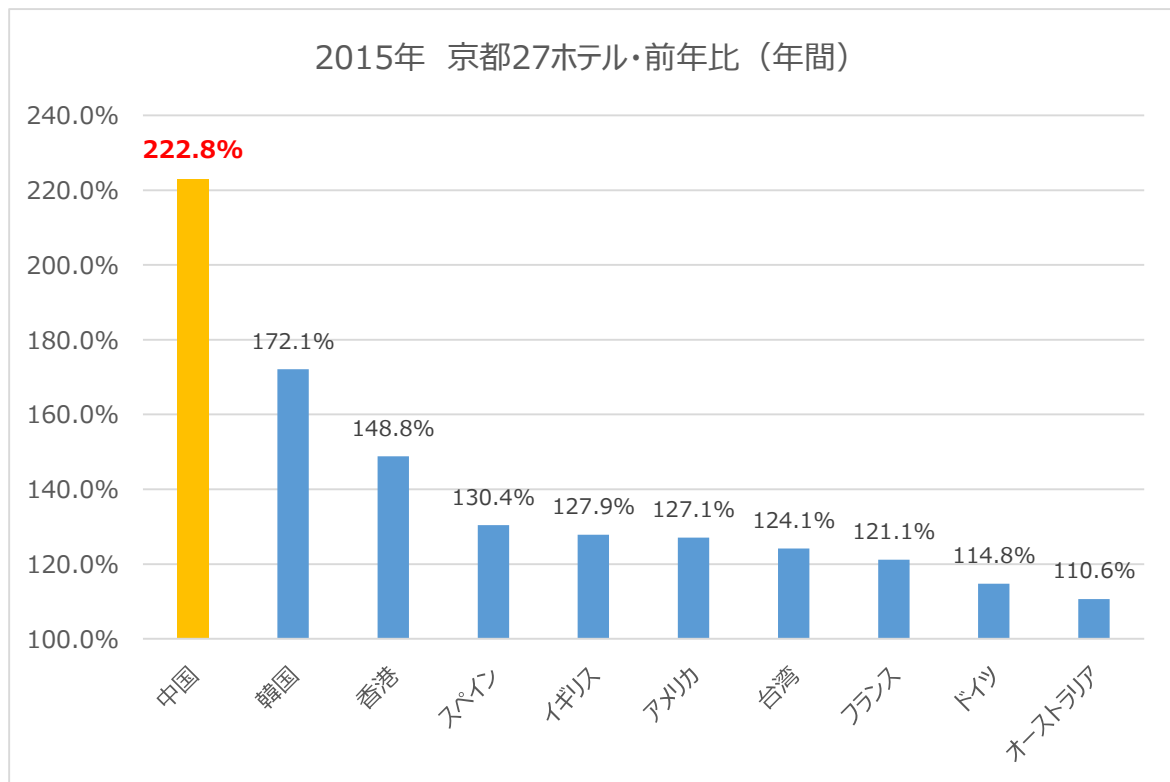
台湾が、春節の2月において36.4%のシェアを占め、2位中国27.6%を含めた2か国・地域で6割を超えた。紅葉の11月は、例年、客室稼働率が高く、京都において最も宿泊が取りにくいと言われている中、構成比トップを占めたのは台湾であった。台湾では、従来から京都人気が定着しており、桜や紅葉時期に合わせ早くから宿泊確保が行われたものと思われる。



5 前年比（年間） ～中国が2倍増で他を圧倒～

前年からの伸びが高かったのは、中国（前年比 222.8%）、韓国（同 172.1%）、香港（同 148.7%）、スペイン（同 130.4%）、イギリス（同 127.9%）の順であった。

成熟市場といえる欧米豪も伸びてはいるが、東アジアの伸びが著しく、とりわけ中国が2倍を超える増加で際立った。

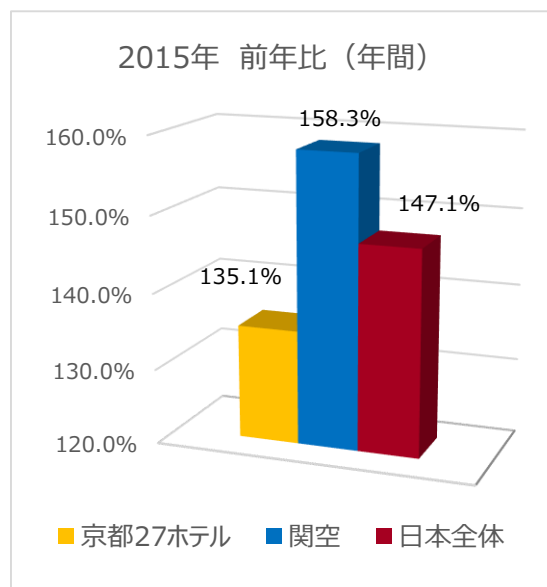


参考：前年比（年間）＜日本全体、関空との比較＞

訪日外客数（日本全体）が前年比 147.1%と伸びたのに対し、京都27ホテルでの宿泊外国人客は同 135.1%で、12.0ポイントの差が生じた。

一方、都道府県別の訪問率において、京都府は、2014年が21.9%であったのに対し、2015年は22.1%（推計）と増加している（観光庁：訪日外国人消費動向調査）。

京都を訪問する外国人は増えているものの、同じ分だけ宿泊客は伸びていないということになるが、これは、京都のホテル客室稼働率（27ホテル）が年平均で約9割と高いため、その他ホテルや旅館等に泊まったり、あるいは近郊都市に宿泊して京都を日帰り観光する観光客が多いことを示していると推測される。

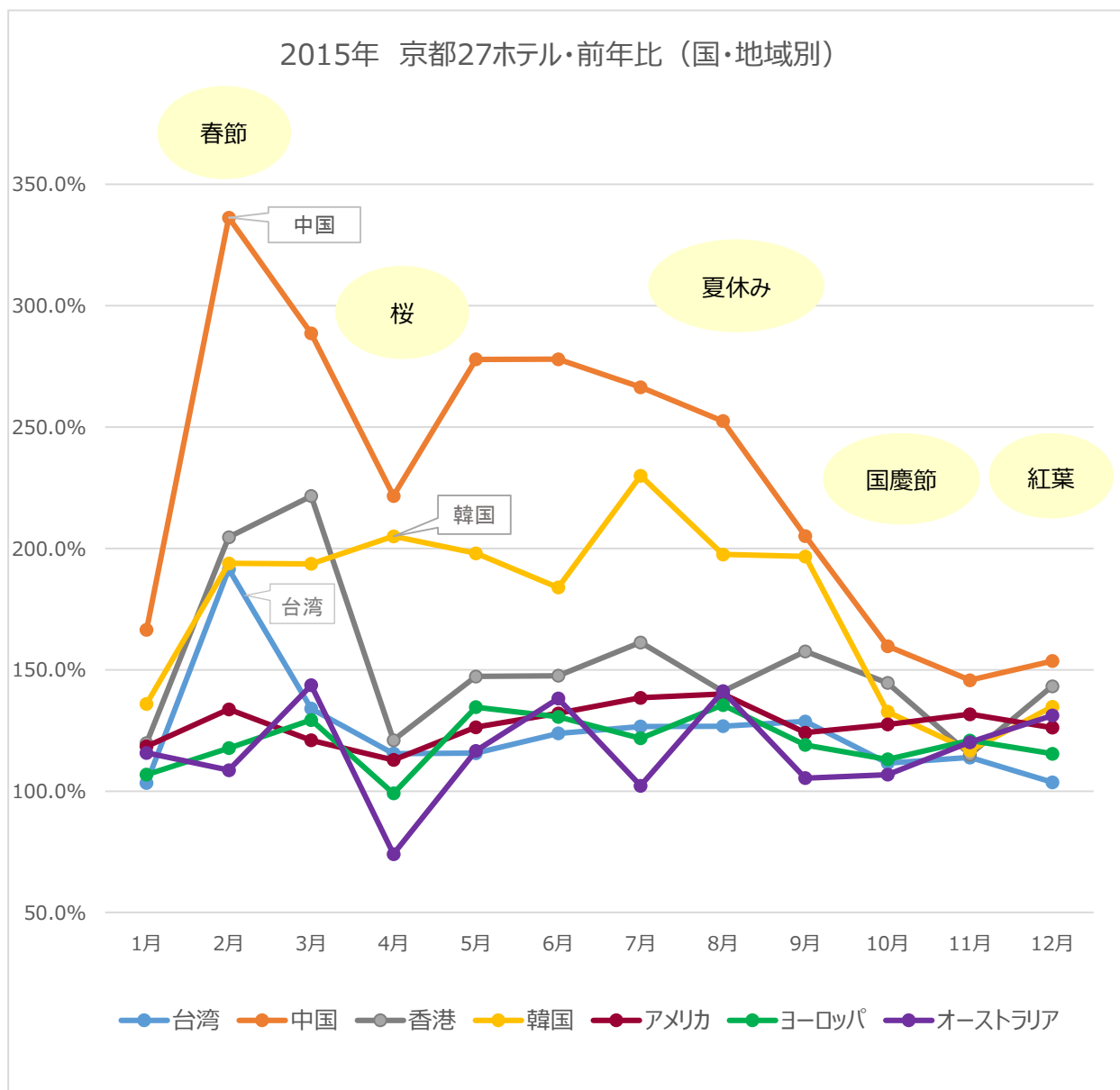


6 前年比（月別） ～中国の勢い、落ち着く傾向に～

中国が、春節の2月において前年比336.3%に達したのを最高に、200%超えを9月まで8か月連続で記録。一方、10月以降は少し落ち着き、150%前後を推移した。背景として、夏期においては、韓国において中東呼吸器症候群（MERS）が蔓延したことを受け、中国人の韓国旅行の代替地として訪日にシフトがあったことが挙げられる。

一方、韓国は、MERS 蔓延当初の6月に若干の落ち込みが見られたものの、京都への訪問は前年比200%前後での月が多く、市場別で2位となる年間前年比172.1%となるなど、大きく成長した1年となった。

台湾は、2月に前年比で約2倍となる191.4%を記録したほかは、大きな変動はなく、100%から150%の範囲内を推移した。



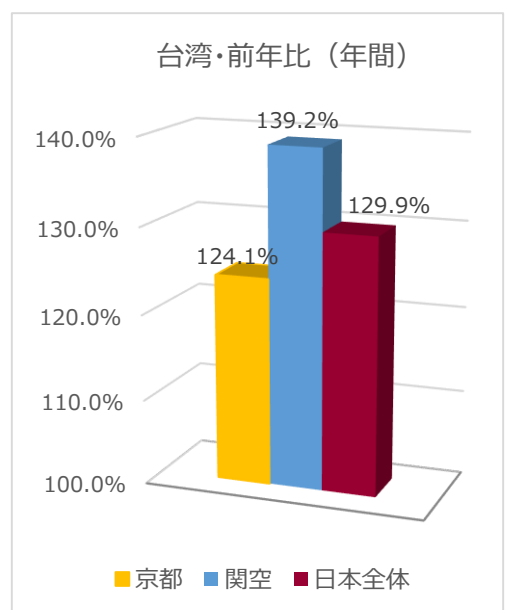
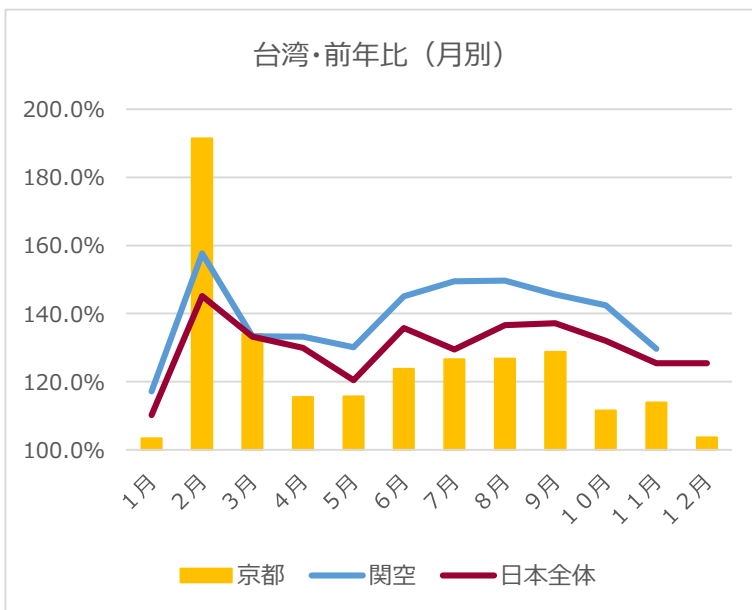
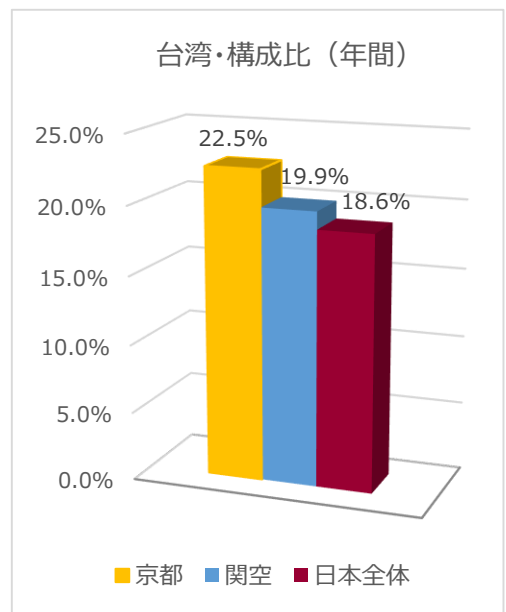
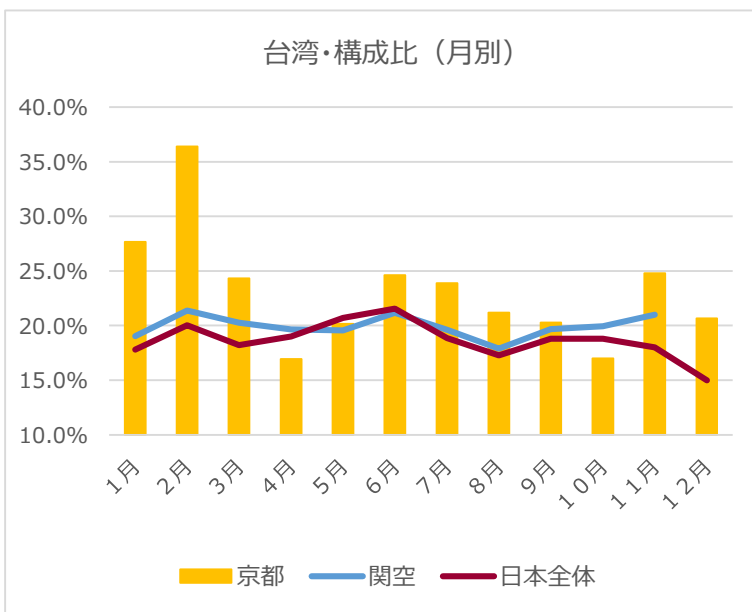
【参考】 国・地域別 <日本全体、関西との比較>

1 台湾

急成長の中国に追い上げられたものの、京都 27 ホテルにおいて 1 位の座を堅持し、構成比（年間）において、日本全体 18.6%や関西 19.9%よりも、京都において 22.5%と高い割合を占めた。これは、ほかのアジア諸国とは異なる傾向で、京都が台湾人観光客により人気が高いことを示しているといえる。

一方、前年比（年間）では、日本全体や関西ほど、京都の数値は伸びず、京都 27 ホテルにおいて宿泊確保が困難になりつつあることも背景にあるものと思われる。

月別では、春節の 2 月において、京都における構成比及び前年比の両方で最も高い数値を示し、特に前年比においては、月別で唯一、日本全体、関西を上回った。

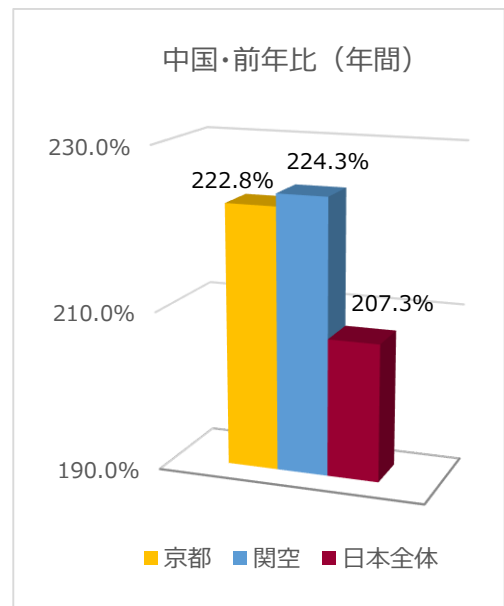
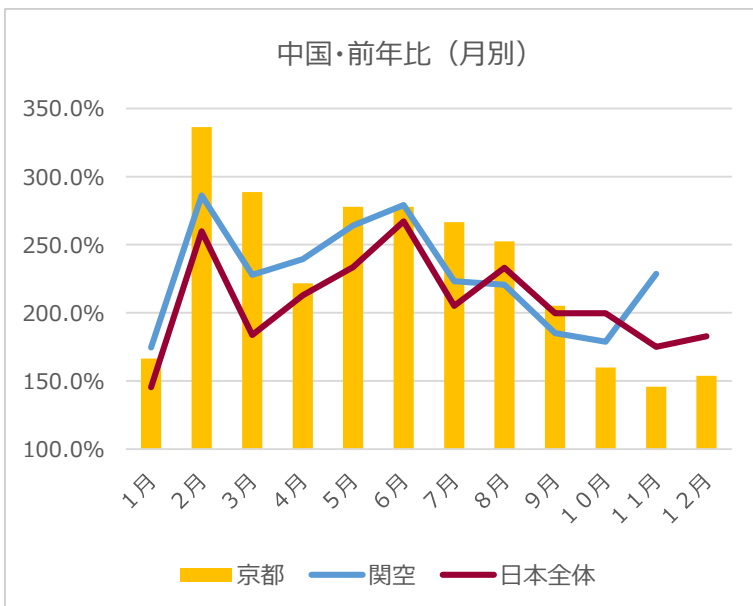
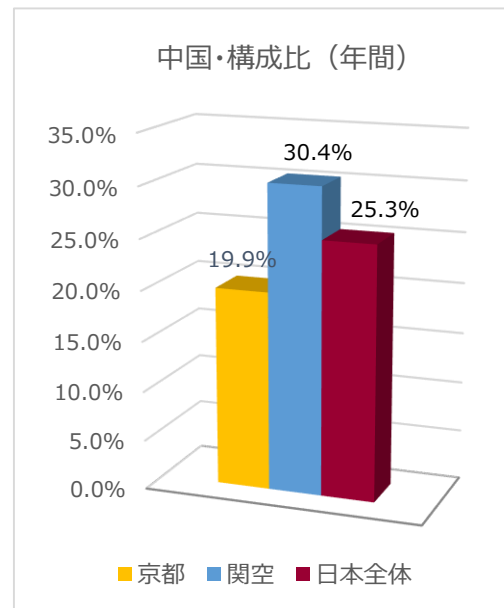
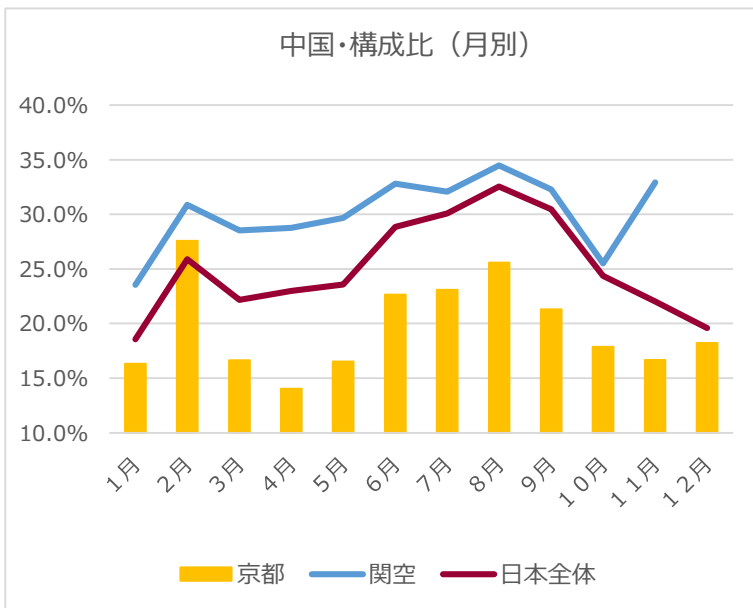


※京都：27 ホテルの数値

2 中国

構成比（年間）において、日本全体、関空で初めて1位に躍進し、京都27ホテルにおいても圧倒的な成長率で、アメリカを抜き、台湾に迫る2位となった。免税店等における観光消費も旺盛で、「爆買い」が流行語になるなど、中国イヤーともいえる象徴的な1年となった。一方、生活習慣の違いによるマナー問題も顕著となり、京都市及びビュローでは、トリップアドバイザーと連携したリーフレットを作成するなど、マナー啓発に努めた。

構成比（年間）において、京都27ホテルの数値は19.9%と、日本全体25.3%、関空30.4%よりも低いが、前年比（年間）では222.8%と、日本全体の207.3%を上回る数値を記録し、前年比（月別）でも、2月、3月、5月、7月、8月の5か月において、日本全体、関空を上回った。



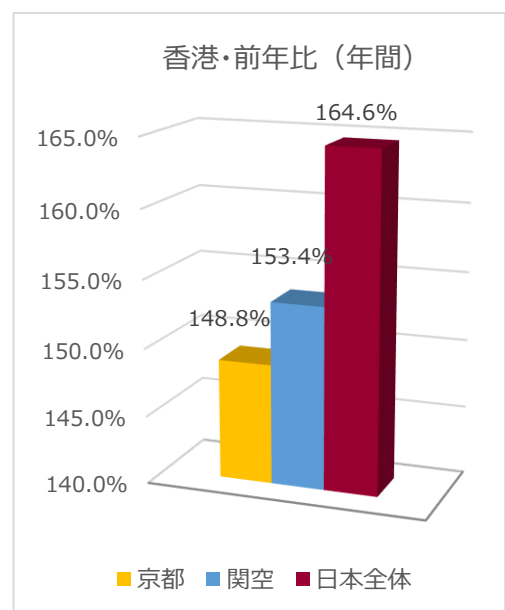
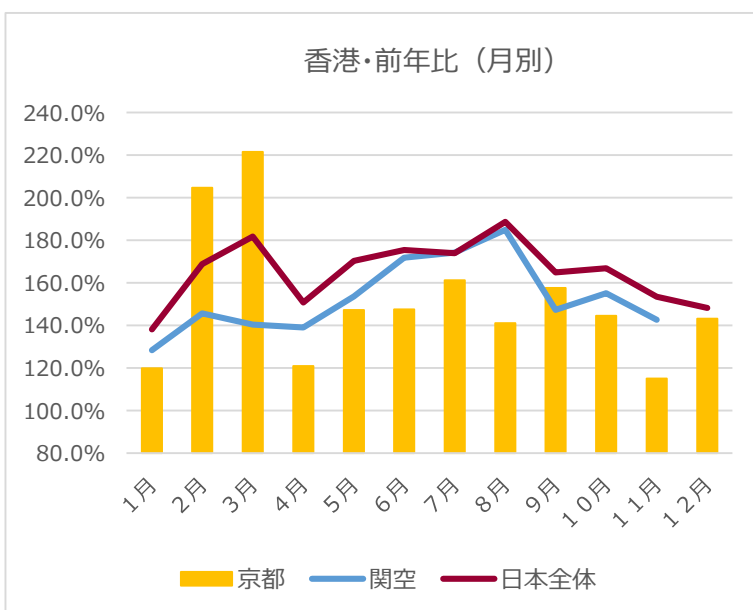
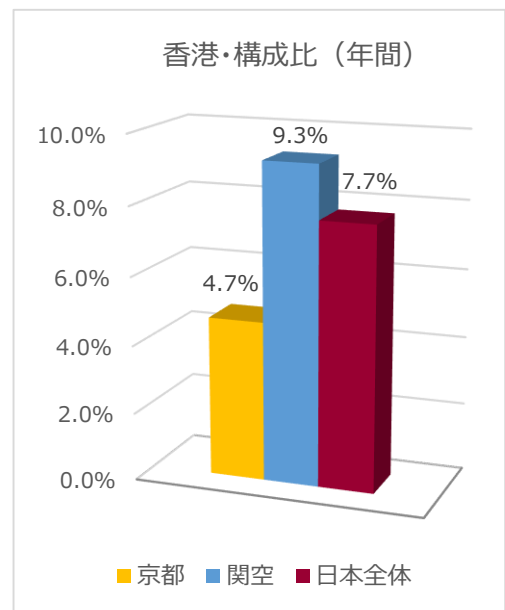
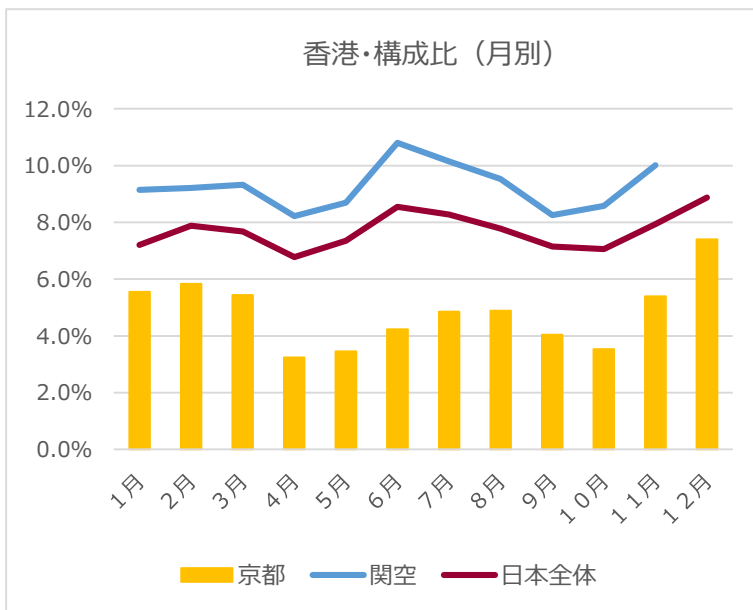
※京都：27ホテルの数値

3 香港

前年比（年間）において、日本全体は 164.6%と市場別で中国 207.3%に次ぐ伸びを記録し、京都 27 ホテルにおいても、中国 222.8%、韓国 172.1%に次ぐ 3 番目の伸び（148.8%）をみせた（P7 参照）。

一方、年間の構成比及び前年比とも、京都の数値は日本全体、関空より低めであった。これは、全市場において最もピーター比率が高い傾向にあり（訪日歴 10 回以上が 24.1%／観光庁「訪日外国人消費動向調査（2014 年）」）、日本全国の観光地への分散訪問が進んでいることも背景にあると思われる。

一方、前年比（月別）の 2 月、3 月は、京都の数値は 200%を超え、日本全体、関空を上回る伸びをみせた。

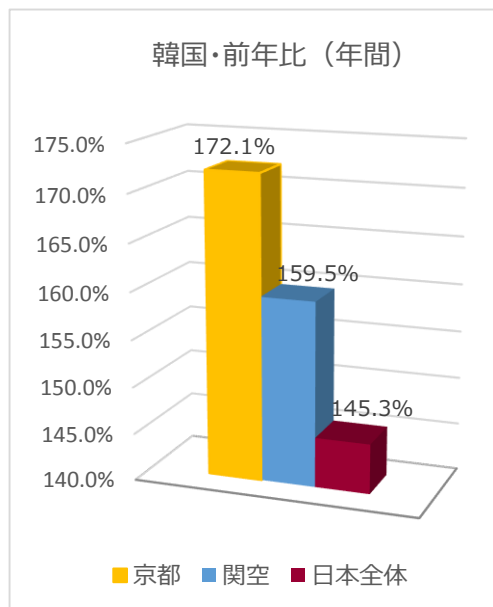
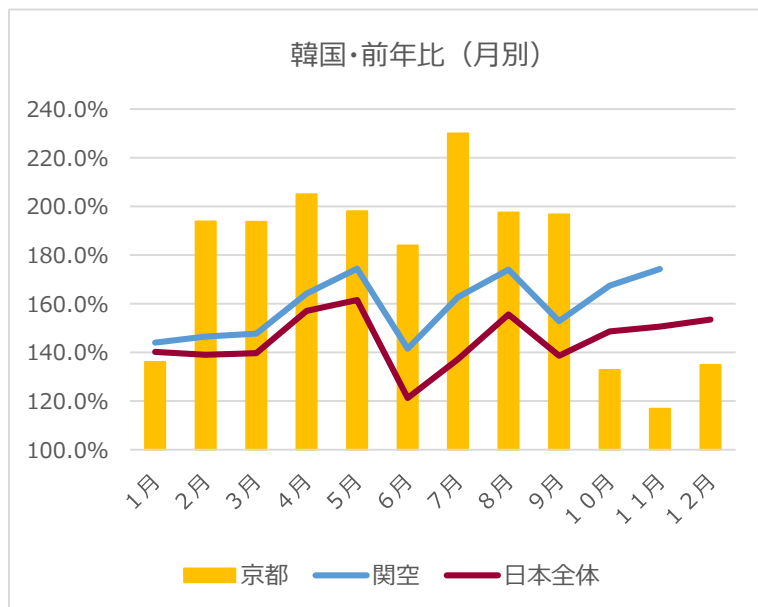
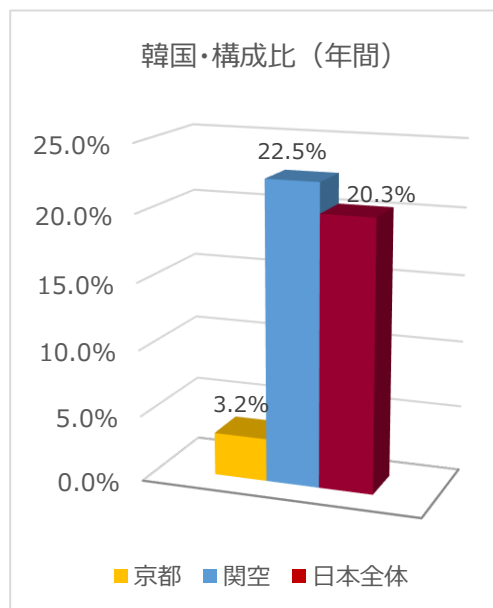
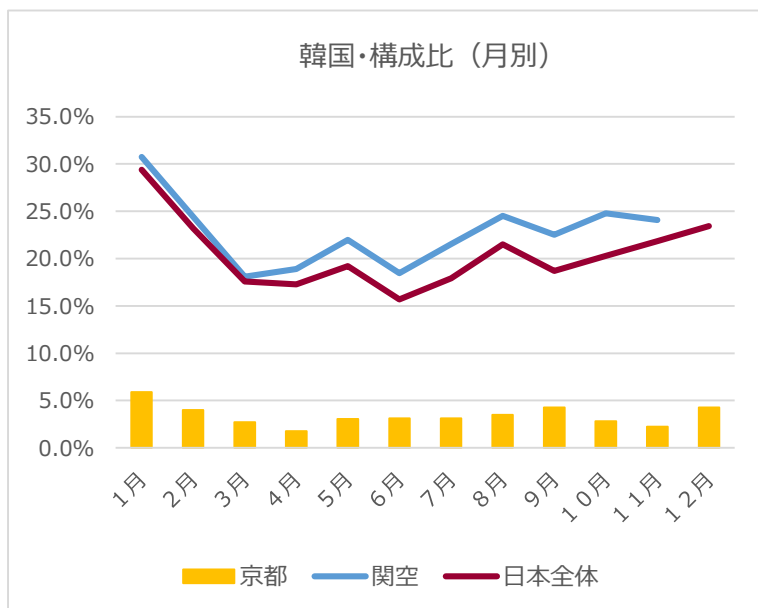


※京都：27 ホテルの数値

4 韓国

構成比（年間）において、日本全体や関西では 20%を超えているのに比べ、京都 27 ホテルにおける割合はその 6~7 分の 1 の 3.2%と低かった。韓国は、もともとショッピングやグルメ、温泉への志向が高く、伝統文化の魅力有する京都への関心が比較的低く、また、学生等の若者の割合が高いことから、ゲストハウス等に宿泊する観光客が他市場よりも多い傾向にあることが背景として考えられる。

その一方、前年比（年間）における京都の数値は 172.1%と市場別で中国に次いで 2 番目に高く、この数値は日本全体、関西を上回っていることから、京都でのホテル宿泊の人気が高まりつつあるといえる。

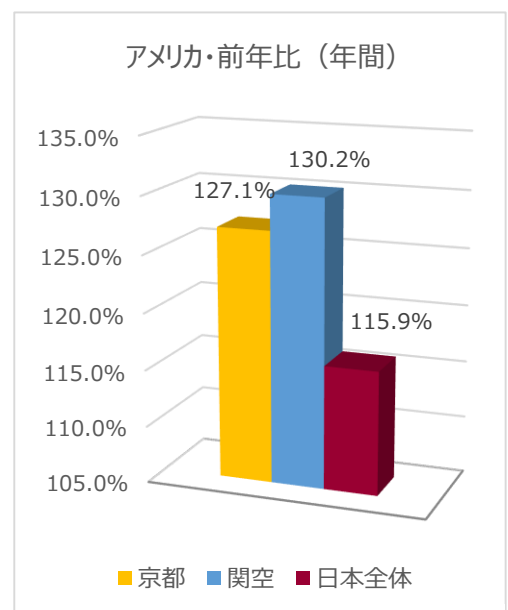
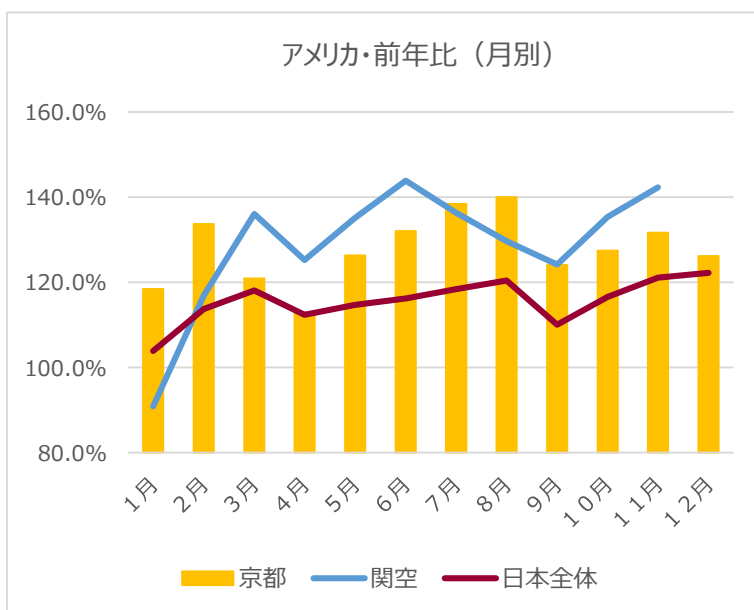
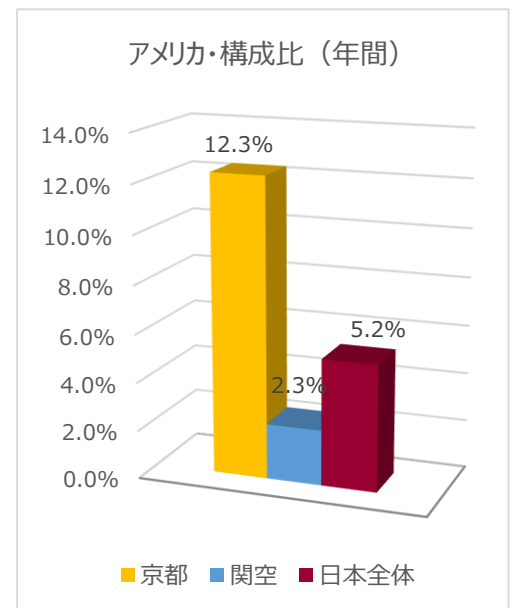
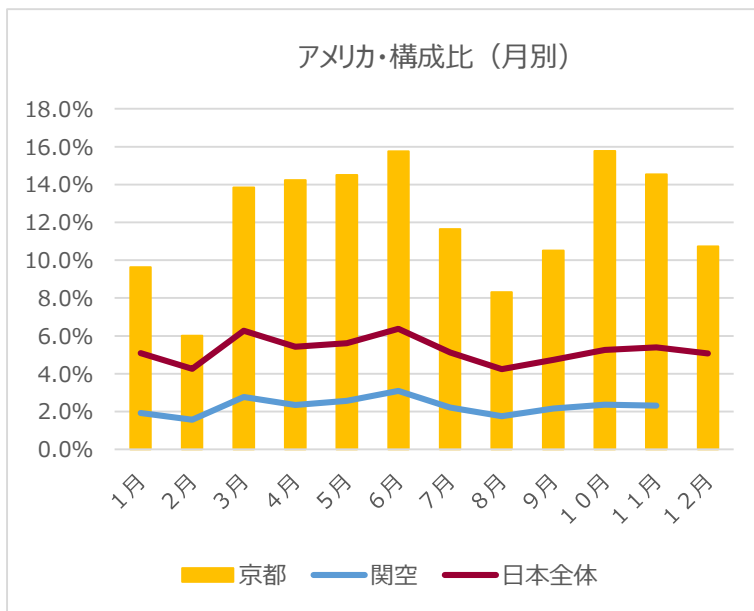


※京都：27 ホテルの数値

5 アメリカ

構成比の年間及び月別において、日本全体、関空の数値よりも、京都 27 ホテルの割合が圧倒的に高い結果となった。特に、世界で最も影響力をもつ旅行雑誌のひとつといわれる、アメリカの「Travel + Leisure」誌の読者投票「魅力的な観光都市」で 2 年連続世界 1 位に選ばれたことの意義は高く、今後も更なる誘客が期待される。

しかしながら、前年比（年間）での京都の数値は 127.1%と、日本全体（115.9%）は上回るも、関空（130.2%）よりは若干低い数値となった。27 ホテルにおいて、客室の確保が困難になっていることも背景の一つにあると推測され、京都人気をいかに宿泊増につなげるか、今後の課題といえよう。

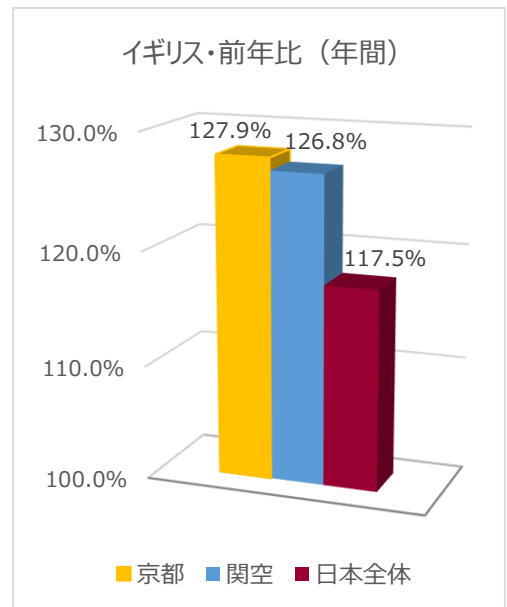
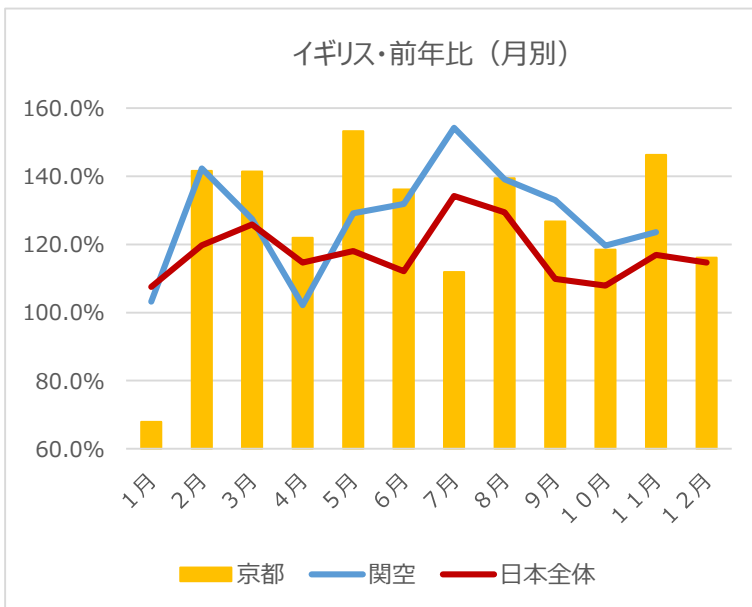
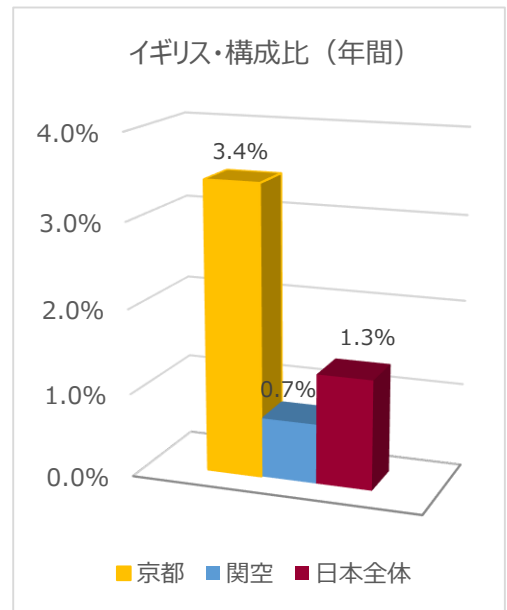
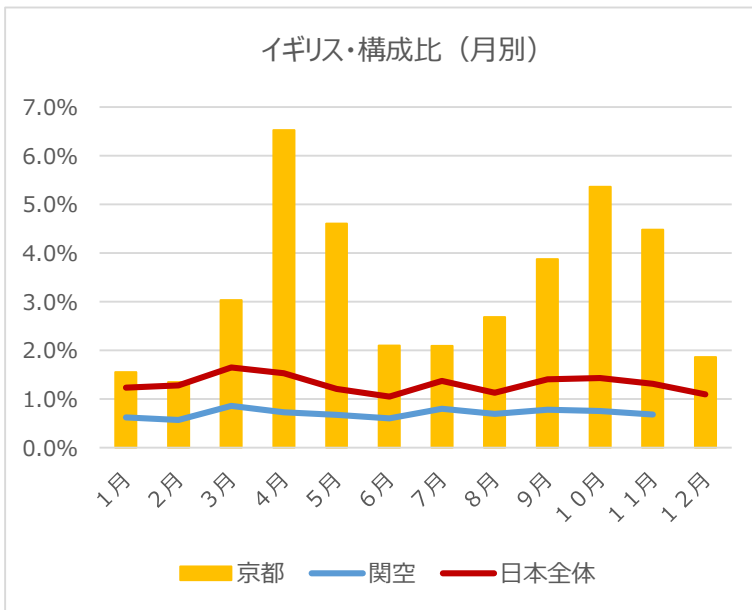


※京都：27 ホテルの数値

6 イギリス

構成比の年間及び月別において、日本全体、関空の数値よりも、京都 27 ホテルの割合が圧倒的に高い結果となった。とりわけ、桜や新緑の 4 月、5 月、紅葉の 10 月、11 月において、京都での構成比が際立った。

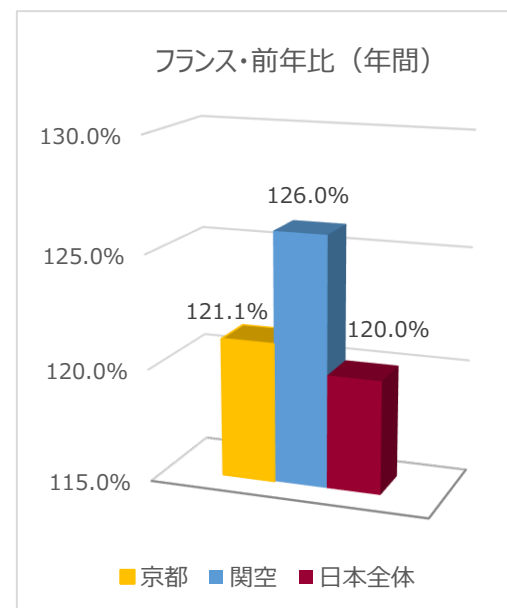
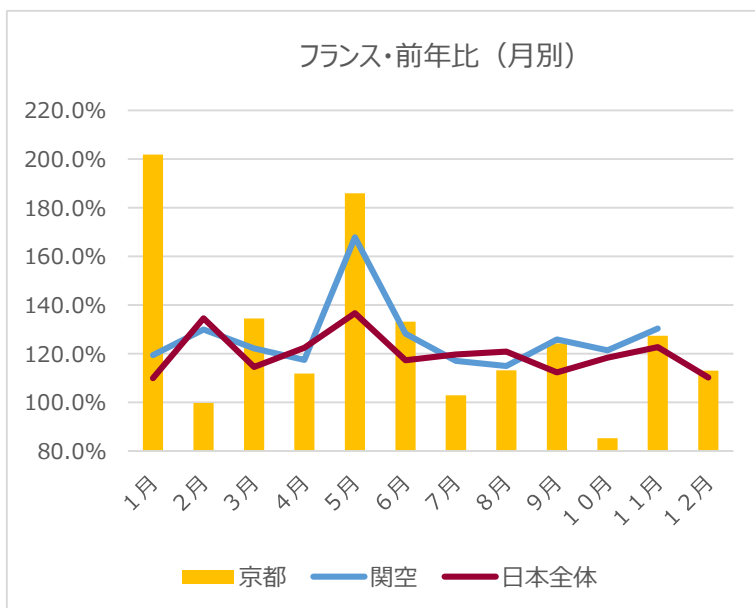
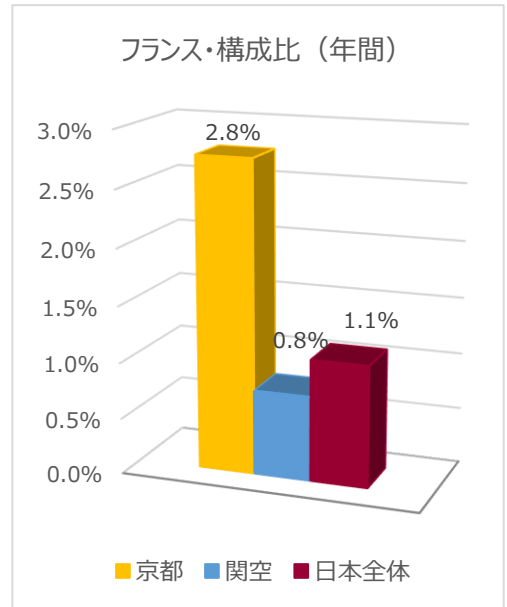
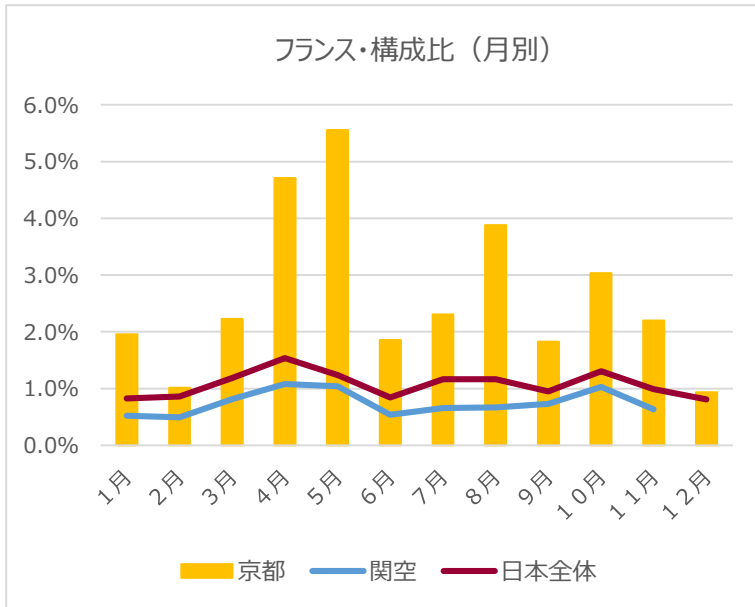
前年比（年間）でも、京都の数値が最も伸びたが、唯一 1 月においては、日本全体や関空と異なり、京都のみ前年割れの結果となった。



※京都：27 ホテルの数値

7 フランス

構成比の年間及び月別において、日本全体、関空の数値よりも、京都 27 ホテルの割合が圧倒的に高い結果となった。とりわけ、桜や新緑の4月、5月、夏休みの8月において、京都での構成比が際立った。前年比（月別）では、前述のイギリスと異なり、1月において京都の伸びが201.8%と顕著であった。

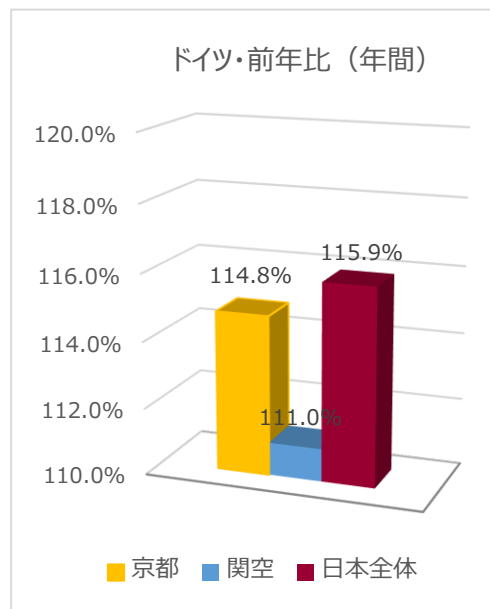
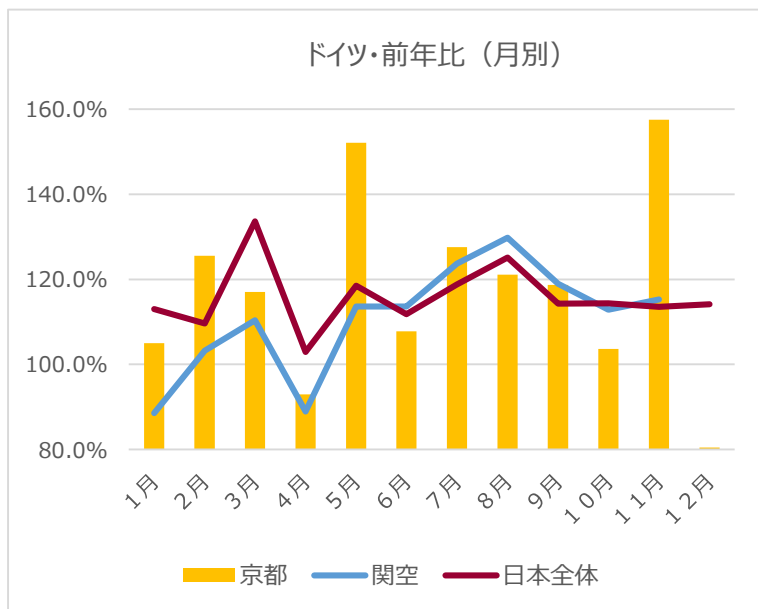
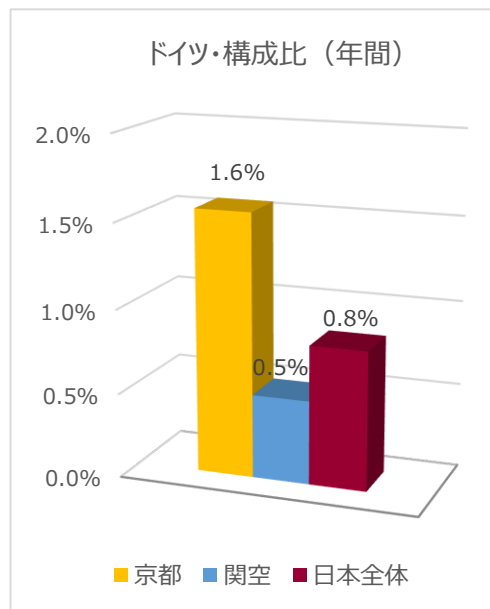
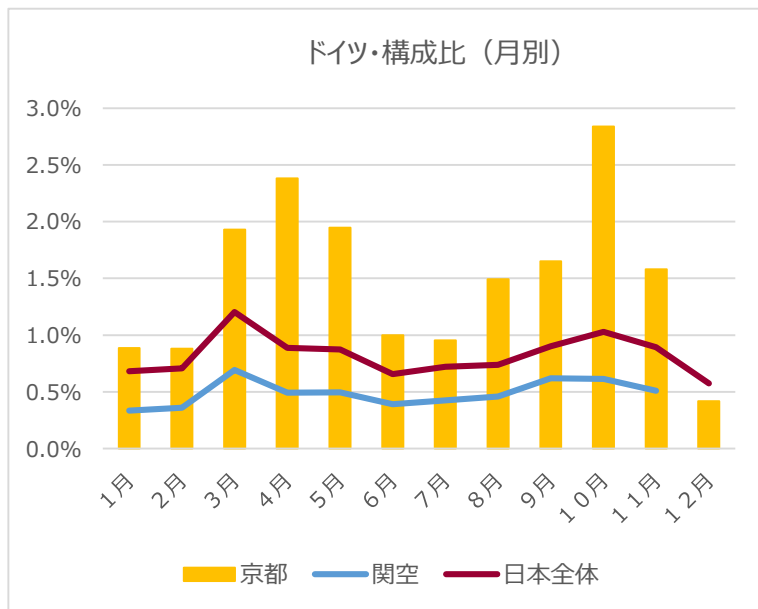


※京都：27 ホテルの数値

8 ドイツ

構成比の年間及び月別において、日本全体、関空の数値よりも、京都 27 ホテルの割合が高く、月別では、3～5月と10月において特に高かった。

前年比（月別）においては、5月と11月の伸びが高かった一方、4月と12月は前年を下回った。年間では関空（111.0%）を上回る114.8%を示した。

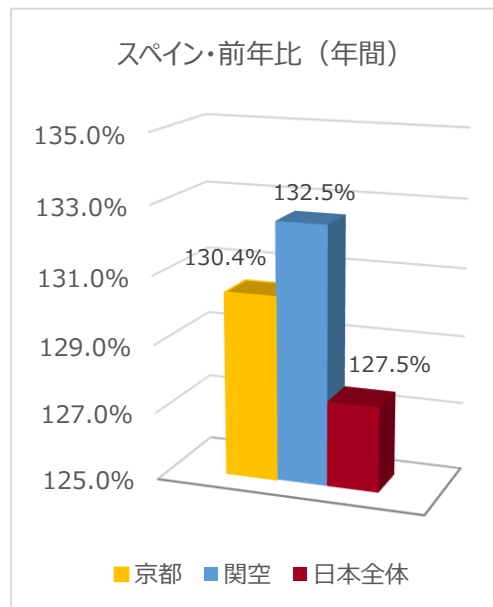
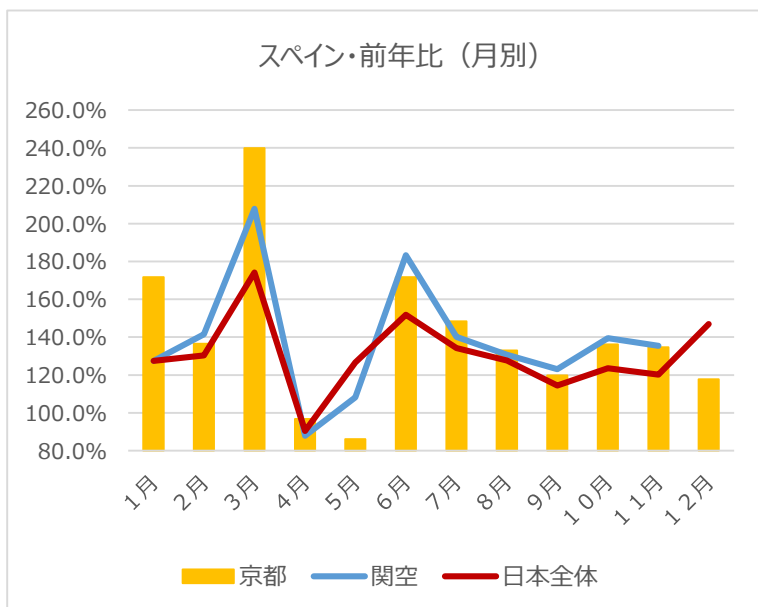
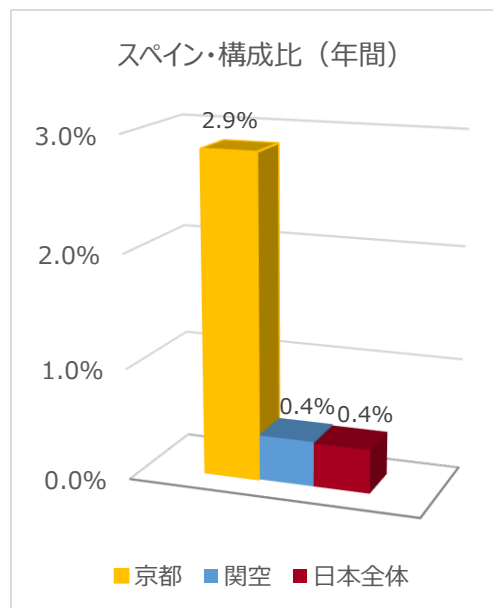
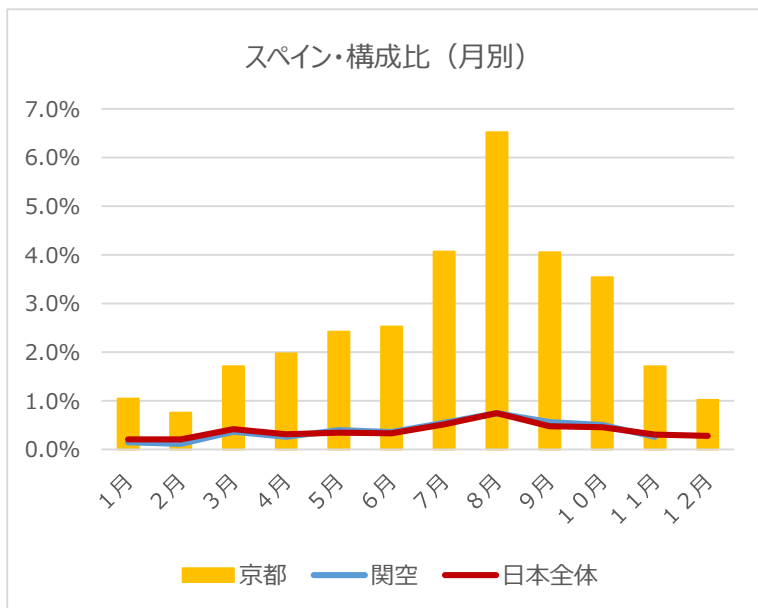


※京都：27 ホテルの数値

9 スペイン

構成比（年間）において、日本全体、関空では 0.4%である一方、京都 27 ホテルは 2.9%と、その差は全市場で最も高い 7.3 倍差に達した。また、京都において、桜や新緑の時期にはあまり高くない一方、8 月には欧米豪における月別シェアで最も高い 6.5%に達するなど、ヨーロッパの中でも、イギリスやフランス、ドイツとは異なる動向を示した。

京都の前年比（月別）において、3 月に 239.9%と大きな伸びを示したのも、欧米豪における最高値であった。

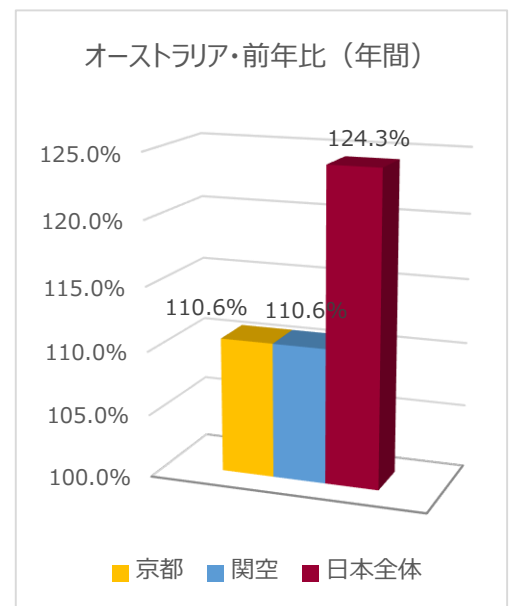
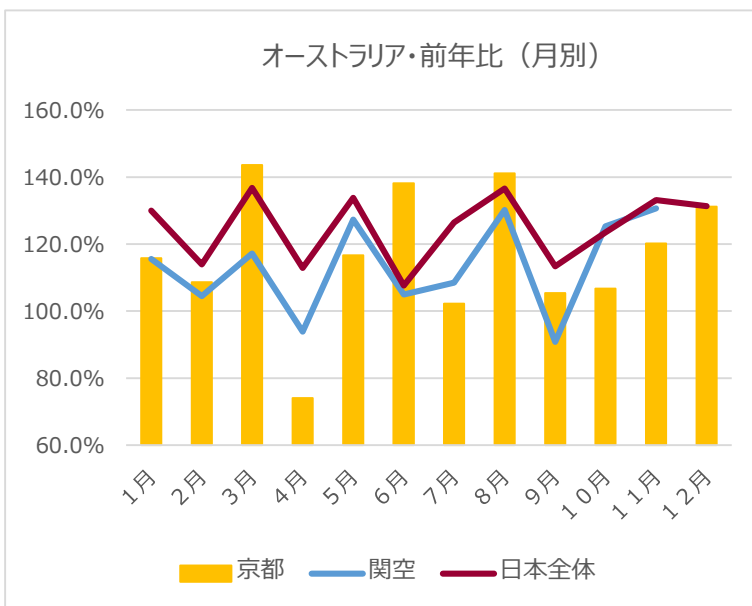
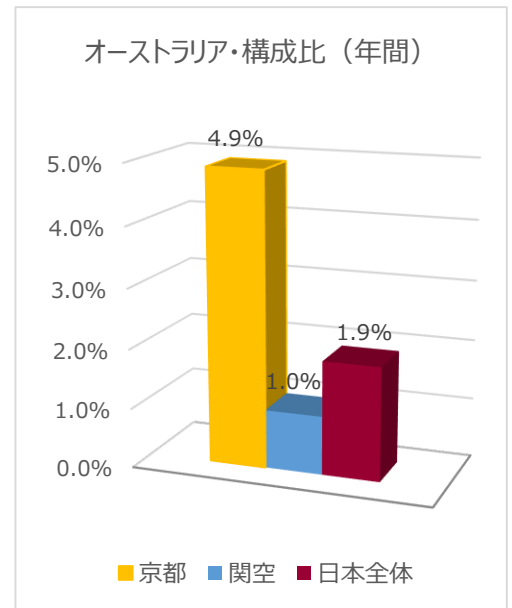
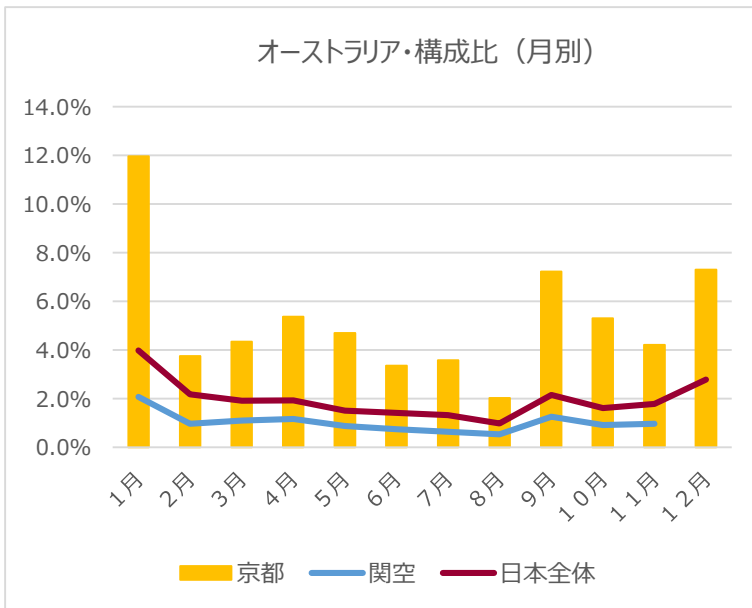


※京都：27 ホテルの数値

10 オーストラリア

構成比の年間及び月別において、日本全体、関空の数値よりも、京都 27 ホテルの割合が高い結果となった。特に1月が人気で、京都における構成比は12.0%に達し、同月の国・地域別で台湾、中国に次ぐ3位となった（P6 参照）。

京都においては、4番目に大きな市場である一方、前年比（月別）では、4月に前年を下回る結果となり、年間を通じて、110.6%と欧米豪の主要国では最も低い数値となった（P7 参照）。



※京都：27 ホテルの数値

外国人客宿泊状況調査【2015.12月】※前年比調査なし（30ホテル）

公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー

国・地域		2015年 12月					
		実人数		延べ人数		延べ部屋数	
		本年	構成比	本年	構成比	本年	構成比
北米	アメリカ	7,689	10.6%	17,344	11.4%	8,152	11.5%
	カナダ	829	1.1%	1,811	1.2%	830	1.2%
	北米小計	8,518	11.7%	19,155	12.5%	8,982	12.7%
中南米	メキシコ	451	0.6%	851	0.6%	389	0.6%
	ブラジル	617	0.8%	1,277	0.8%	607	0.9%
	その他	1,607	2.2%	4,904	3.2%	2,313	3.3%
	南米小計	2,674	3.7%	7,032	4.6%	3,309	4.7%
ヨーロッパ	イギリス	1,299	1.8%	2,936	1.9%	1,429	2.0%
	フランス	672	0.9%	1,517	1.0%	755	1.1%
	ドイツ	301	0.4%	716	0.5%	421	0.6%
	イタリア	1,043	1.4%	2,377	1.6%	1,015	1.4%
	オランダ	162	0.2%	384	0.3%	205	0.3%
	スペイン	735	1.0%	1,635	1.1%	740	1.0%
	スイス	181	0.2%	447	0.3%	225	0.3%
	スウェーデン	128	0.2%	285	0.2%	156	0.2%
	フィンランド	124	0.2%	262	0.2%	143	0.2%
	ロシア	197	0.3%	326	0.2%	198	0.3%
	その他	779	1.1%	1,772	1.2%	824	1.2%
ヨーロッパ小計	5,618	7.7%	12,657	8.3%	6,111	8.6%	
東アジア	中国	13,412	18.4%	28,402	18.6%	13,582	19.2%
	台湾	14,934	20.5%	26,618	17.4%	12,103	17.1%
	香港	5,489	7.5%	10,823	7.1%	4,794	6.8%
	韓国	3,050	4.2%	5,730	3.8%	2,941	4.2%
	東アジア小計	36,884	50.7%	71,573	46.9%	33,420	47.3%
東南アジア	フィリピン	552	0.8%	1,357	0.9%	582	0.8%
	ベトナム	211	0.3%	432	0.3%	249	0.4%
	タイ	1,938	2.7%	3,838	2.5%	1,731	2.4%
	インドネシア	1,404	1.9%	3,068	2.0%	1,304	1.8%
	マレーシア	2,006	2.8%	4,616	3.0%	1,948	2.8%
	シンガポール	4,517	6.2%	10,308	6.7%	4,436	6.3%
	インド	379	0.5%	804	0.5%	409	0.6%
	その他	563	0.8%	1,213	0.8%	538	0.8%
東南アジア小計	11,568	15.9%	25,636	16.8%	11,197	15.8%	
中東	イスラエル	50	0.1%	118	0.1%	70	0.1%
	カタール	125	0.2%	251	0.2%	125	0.2%
	UAE	101	0.1%	233	0.2%	77	0.1%
	サウジアラビア	11	0.0%	20	0.0%	5	0.0%
	トルコ	43	0.1%	86	0.1%	60	0.1%
	その他	76	0.1%	300	0.2%	172	0.2%
	中東小計	405	0.6%	1,008	0.7%	509	0.7%
オセアニア	オーストラリア	5,312	7.3%	11,819	7.7%	5,170	7.3%
	ニュージーランド	211	0.3%	497	0.3%	208	0.3%
	その他	44	0.1%	80	0.1%	37	0.1%
	オセアニア小計	5,566	7.7%	12,396	8.1%	5,415	7.7%
アフリカ	103	0.1%	254	0.2%	136	0.2%	
海外その他	1,417	1.9%	3,039	2.0%	1,616	2.3%	
海外合計	72,753		152,750		70,695		
国内合計	165,951		290,495		157,141		
合計	238,704		443,245		227,836		

	本年度
総営業部屋数	259,966室
総稼働部屋数	227,836室
稼働率	87.6%
外国人利用割合	31.0%

(注) 国別の宿泊外国人客数については、施設により実人数もしくは延べ人数の集計がない施設もあり、延べ人数は実人数×2で算出。また、小数点第一位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

(1) 調査時期: 2015年12月1日～2015年12月31日

(2) 回答施設数: 30ホテル 8,386室